

運用商品について

（参考）運用商品の着眼点（例）

商品種類	着眼点	具体例
複数の資産に分散投資する商品	投資対象としている資産の構成割合	・国内株式●%・国内債券●%・外国株式●%・外国債券●%、等
	運用スタイル	<ul style="list-style-type: none">・ スタティック型 投資対象の構成割合が固定されているタイプ。「安定型・安定成長型・成長型」「株式30・株式50・株式70」等の商品名であることが多い。・ ターゲットイヤー型 目標年度に向かって運用会社が資産配分を自動的に変更するタイプ。「ターゲットイヤー2030・2040・2050」等の商品名であることが多い。
個別の資産に投資する商品	投資対象	・国内株式・国内債券・外国株式・外国債券、等
	運用スタイル	<ul style="list-style-type: none">・ パッシブ（インデックス）運用 各資産のベンチマーク（市場の平均値）に連動した投資成果を目指すタイプ。・ アクティブ運用 各資産のベンチマーク（市場の平均値）を上回る投資成果を目指すタイプ。 株式のアクティブ運用には、企業の利益や純資産の水準から株式の価値が割安と考えられる銘柄に投資するバリュー運用、企業の競争力等から成長性が高いと考えられる銘柄に投資するグロース運用等がある。
元本確保型商品	商品種類	・定期預金
	満期までの年限	・最長5年

信託報酬とは

信託報酬とは投資信託のコスト（手数料）

（例）

